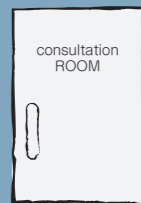




呼吸器外科 科長
塩 豊
しお ゆたか

きょうは
呼吸器外科
です



こんにちは
診察室です。

気胸のお話

「ここから」は診察室です。のバックナンバーがご覧いただけます。



はじめに

気胸とは肺から空気がもれて、肺が入っている空間(胸腔)に空気がたまって肺がしぼんだ状態を言います。イケメンの若い男性芸能人が気胸になったニュースを見る機会があるためでしょうか、外来受診した女性や高齢者に気胸ですと診断を告げるととてもびっくりされる事や強く反論される事があります。気胸は20歳前後のイケメンがかかる病気なのでしょうか。

気胸の分類

自然気胸と自然じゃない気胸に大きく分けられます。自然気胸は内因による、自然じゃない気胸は外因による気胸。なんだかさっぱりつかない。

りわかりませんね。

外因による気胸つまり身体の外からの原因による気胸とは、交通事故や転落事故、ナイフなどの刺傷、鍼や注射が原因の場合などが含まれ外傷性気胸といわれます。外傷性の文字通り肺の表面の傷から空気がもれた状態です。イケメンとは関係なさそうですね。

自然気胸は外因が無く発生する、つまり事故やケガなど関係なく自然に発生する気胸です。

身体の中に何も病気が無く発生した気胸を原発性自然気胸といいます。原発性自然気胸の多くは肺の表面を覆う胸膜が一部袋状のプラといわれる状態にあり、このプラに穴が空いて空気がもれが起きます。20歳前後の若いヤセ型の男性

に多く発生しますので、イケメンの方々は要注意です。

自然気胸には続発性自然気胸もあります。続発性とは、何か病気がありそのために引き続き起こるという意味です。多くは肺気腫など喫煙の影響により、肺がだんだんと壊れてくる病気のため、最終的に胸膜が破れて空気がもれてしまいます。喫煙による肺疾患は高齢になるほど多くなりますので、30歳代までは稀で年齢とともに増えてきます。どうやらこれもイケメンから離れてきたようです。

その他にも、子宮内膜症の特殊なタイプとして月経随伴性気胸があり、肺や横隔膜に月経に伴って穴が空くために発症するとされていますので月経がある時期の女性

気胸の症状

気胸はある時、急に肺の表面に穴が開いて空気が胸腔にもれる疾患です。もれ方の多い少ない、肺のしぼみ方の大きい小さいによって症状も違います。

典型的な症状としては突然の胸、肩、背中などの痛み、咳、息苦しさで、発症の時刻までわかる事もあります。空気がもれが大量で心臓を圧迫する程になるとショック症状を起すこともあります。一方で症状がなく、レントゲン検査で発見されることもあります。

気胸の検査

画像検査が重要です。最も重要で最初に行うのが胸部レントゲン検査です。必要に応じて胸部CT検査を追加します。

気胸の重症度

肺のしぼみ方をもとにI・II・IIIとそれ以上の4段階に分類されています。Iは軽度で肺はちょっとしぼんだだけ。IIは高度で片方の肺が完全にしぼんだ状態。IIIはその中間。IIより厳しいのは緊張性気胸で、肺が完全にしぼんで更に心臓と反対側の肺を押しつぶしている緊急事態です。

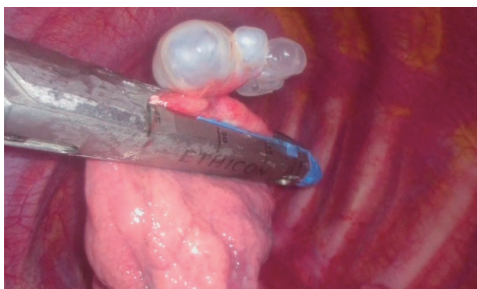
気胸の治療

自然気胸の初発で軽症の場合、何もしなくても自然に治ってしまうことがあります。それ以外では治療の第一歩とし

て、まずはしぼんだ肺を元に戻すために溜まった空気を抜く作業があります。針を刺して空気を抜く胸腔穿刺吸引と、管を入れたままにして持続的に空気を抜く胸腔ドレーンという方法があります。空気を止める方法は、つまり穴が空いた部分を処理する事です。手術を含めて様々な方法があります。しぼんだ肺を元に戻すことと空気を止める事がその治療なのですが、一筋縄に行かないのが気胸の治療です。というのも特に続発性自然気胸においては空気がもれた場所が見つからない、そもそも呼吸が悪くて手術ができない、再発が多いなど個別に対応すべき事が多くなるからです。

手術

多くの場合胸腔鏡を用いた手術を行います。原発性自然気胸で初回手術であれば、2〜3か所の小さな穴を使って空気を

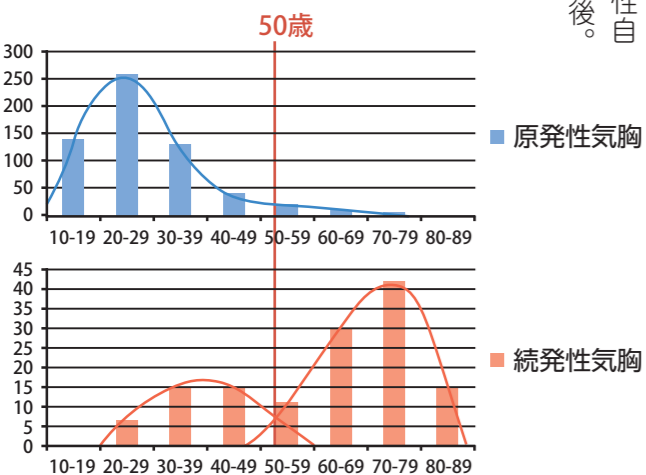


(図1) 原発性自然気胸



(図2) 続発性自然気胸

(図3) 原発性と続発性気胸の年齢分布



森山重治ら：未成年喫煙が原因と考えられる若年性続発性気胸の特性と問題点。日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌；14：51-56, 2014.

位を見つけて処理する1時間程度で終わる簡単な手術がほとんどです。続発性気胸では様々な要因により手術の難易度が上がり、手術に必要な技術も増えてきます。数時間かかる場合もあります。参考までに手術中の画像で原発性自然気胸(図1)と肺気腫がベースにある続発性自然気胸(図2)の2点を表示します。

まとめ

というわけで重症度、社会的背景、基礎疾患その他を基に患者さんに応じた治療方針を立てます。イケメンが多い原発性自然気胸の発症ピークは20歳前後。続発性自然気胸の発症ピークは75歳前後。

30歳代では気胸は殆んどいないはずなのに時々いるんです。これももうひとつの集団であり、未成年喫煙が原因と考えられる若年性続発性気胸の集団です。私も所属しています日本気胸・嚢胞性肺疾患学会で報告されています。10歳代でタバコを吸い始めた集団では、本来は気胸が少ない30〜40歳代で続発性気胸を発症する事があります(図3)。

結論。イケメン病は確かにありそうだがそれだけではない。タバコは吸わない方が良い。

「気胸」についてご説明します。